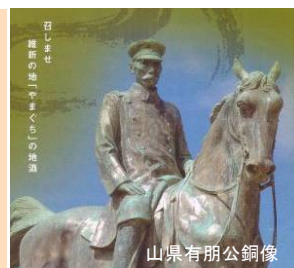


第3回 やまぐち地酒維新

18歳勢ぞろい。維新パワーで、日本酒を元気に！



山口県酒造組合の首都圏向け需要開発イベント「やまぐち地酒維新」が9月22日の午後7時から、東京文京区の椿山荘で開かれました。3回目となる今回は、県下の18歳元が結集して自慢の日本酒をサービス。詰め掛けたおよそ500人の日本酒ファンが、豪華地元の名物料理を肴に山口の地酒を楽しみ、元気ハツラツのパーティ風景を繰り広げました。



山口有朋公銅像

● 会場は地元の偉人にゆかりの場所。内容もさらにパワーアップ



原田会長

「椿山荘は明治の元勳で萩市出身の山縣有朋公の別邸跡。また、椿山荘を運営する藤田観光の創始者・藤田傳三郎翁は、同じく萩市出身で今年がその生誕170年に当たります。今回のイベントは、維新の地・山口と縁の深いこの場所を会場に、大変な困難の中にある日本を再び元気な国にしたいと思って企画しました」と語るのは、山口県酒造組合の原田茂会長。

その言葉どおり、今回は定員数も昨年の350人から500人に拡大したほか、県漁連の協力で下関名産のトラフグを地元直送するなど、これまで以上にパワーアップ。来場者は、ふぐ刺しやふぐチリ、山口の食材をふんだんに使った箱盛り料理などを味わいながら、2時間にわたって山口の地酒を心ゆくまで堪能しました。



● ロックのビートで華やかにオープン

イベントのオープニングでは、強烈なロックのビートに乗って、参加 18 蔵元がステージ上に勢ぞろい(前頁の写真)した後、原田会長が、「今日は元気な山口の蔵元が造ったお酒を存分に楽しんで、忌憚のないご意見を聞かせてください」と歓迎の挨拶。

続いて、地元選出の平岡秀夫法務相による来賓挨拶を挟み、全員が萩焼きのぐい飲みを掲げて日本酒で乾杯し、お待ちかねのパーティがスタートしました。



日本酒で乾杯！発声は日本酒造組合中央会・岡本副会長(上の写真左。右は平岡法務相)

● 「十二分に得した気分」と来場者

会場の周囲に並んだ蔵元のブースでは、各蔵の関係者が大わらわで来場者の対応に当たっていましたが、中には東日本大震災の被災者への応援メッセージを掲げた蔵元も。また、会の途中には、18 蔵の平成 22BY 課税移出数量の合計を当てると全蔵の酒 18 本がもらえる数字当てクイズなども用意され、ある女性参加者は「クイズは外れたけど、お酒も料理も十二分に楽しんで得した気分」と感想を語っていました。



数字当てゲームの最後はジャンケン勝負に(右上)